

第32号 (2005年度)

金沢国際親善ニュース



「第54回金沢百万石まつり」の百万石行列にて 雨の中を元気に行進するハンブルグ高校ジャズバンド団

金沢市姉妹都市交流委員会

加賀宝生 韓国友好訪問団派遣

「日韓友情年2005」という大変意義深い年に、(社)金沢能楽会、加賀宝生子ども塾(含 梅鷺会：子ども塾OB会)が「加賀宝生韓国友好訪問団」を組織し、2005年8月8日から13日の6日間の日程で、韓国全州市とソウル市を訪問しました。

金沢が誇る伝統芸能「加賀宝生」能を韓国の人々に披露し、ともにユネスコの世界無形文化遺産である「パンソリ」との共演を通じて、両国、両市民の一層の友好・交流を図りました。

金沢市の姉妹都市、全州市では、韓屋街特設舞台において、「能」を実演、紹介、体験するワークショップを行い、現地の幅広い年齢層の方々に、「能」を理解・体感していただくことができ、翌日にはソリ文化の殿堂のホールに、ほぼ満員の観客を集め、子ども塾生の謡、仕舞から始まり、金沢能楽会による本格的な公演(パンソリとの共演)が催されました。

また、子ども塾生達は、筆峰農楽専修教育館で韓国伝統芸能を学んでいる子ども達と、互いの技芸を披露し合ったり、伝統的な楽器の演奏方法を教えてもらうなど、相互理解と交流を深めることもでき、生まれ育った地に息づく芸能を学ぶ大切さを共有できました。

ソウル市でも、貞洞劇場において満員の観客の前で、金沢能楽会による本格的な「能」公演がパンソリとの共演で開催され、その幻想的な雰囲気は観衆を魅了し、盛大な喝采を浴びたことは、非常に感銘深いものとなりました。

訪問した各地では、とても友好的で、今回の公演を力を合わせて成功させ、両国間の友好をより深めようとする強い思いが随所に感じられ、金沢能楽会の方々をはじめ、子ども塾生には非常に意義深く、心に残る訪問となりました。とても暑く、熱い夏でした。

8月9日(火)

- ・ 全州市役所、全羅北道庁への表敬訪問
- ・ 全州市韓屋街特設舞台にてワークショップ

(能楽会、子ども塾)
(能楽会、子ども塾)

8月10日(水)

- ・ 筆峰農楽専修教育館で現地子ども達と伝統芸能交流
- ・ 全州市ソリ文化の殿堂での公演(パンソリとの共演)
- ・ 現地主催のレセプションへの参加

(子ども塾)
(能楽会、子ども塾)
(能楽会、子ども塾)

8月11日(木)

- ・ 在韓国日本大使館表敬訪問
- ・ ソウル市貞洞劇場にて伝統芸能を鑑賞

(能楽会、子ども塾)
(能楽会、子ども塾)

8月12日(金)

- ・ ソウル市貞洞劇場にて公演(パンソリとの共演)
- ・ ソウル市国立博物館等を見学

(能楽会)
(子ども塾)



全州市役所表敬訪問



現地の子ども達との交流



いよいよ公演本番



塾生による仕舞の披露



在韓国日本大使館表敬訪問



ソウル国立博物館見学

冬の金沢で世界トップレベルの選手たちが競演!!

新体操ウインターフェスタ in KANAZAWA 2006

世界の一流の新体操選手を間近で見られる「新体操ウインターフェスタ in KANAZAWA 2006」が、今年度も2006年2月5日、金沢市総合体育館において開催されました。

本年は、海外から姉妹都市ロシア・イルクーツク市選手団(個人)、ブルガリア・ジュニアナショナルチーム(個人・団体)、中国のジュニア・ナショナル強化選手そして国内から全日本選手団(個人・団体)が、冬の金沢に集結。演技会には、地元の金沢市選手団も加わり、それぞれ素晴らしい演技を繰り広げました。

なお、演技会に先立ち、海外からの選手団は、市内視察を行い、冬の金沢の雰囲気を堪能するとともに、「ふれあい交流事業」として市内小中学校にも訪問し、児童・生徒らとの交流を通じて、教育現場における国際交流にも一役買ってくれました。

新体操ウインターフェスタ in KANAZAWA 2006

主な事業日程

- | | |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 2月2日(木) | 市内視察(金沢城・兼六園) |
| 2月3日(金) | 金沢市長表敬訪問
市内小中学校訪問
・森山町小学校(イルクーツク市団)
・四十万小学校(ブルガリア団)
・城南中学校(中国団) |
| 2月4日(土) | 公開練習 |
| 2月5日(日) | 「新体操ウインターフェスタ in KANAZAWA 2006」演技会 |



金沢城で記念撮影



山出市長と記念撮影



イルクーツク市の選手達と児童との新体操交流



開会式の様子



ブルガリア選手団の団体演技



バッファロー〈アメリカ合衆国〉



兼六園にて記念撮影

提携 1962年(昭和37年)

人口 26万人

面積 105km²

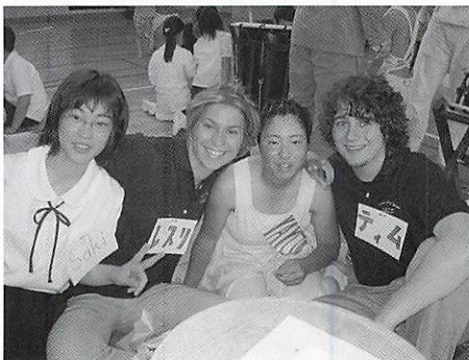
五大湖のひとつ、エリー湖の東にあり、ニューヨーク州西部の政治、経済、教育、文化の中心地。製鉄・製粉などの工業都市として発展した。「五大湖の女王都市」とも呼ばれ、アルブライト・ノックス美術館、1846年創立の州立大学バッファロー校や広大なデラウェア公園があるほか、著名な建築家フランク・ロイド・ライト設計の建物が6つ現存するなど、文化と学術のまちでもある。有名なナイアガラの滝は、北西25kmの所にある。

ハンブルグ高校ジャズバンド団 百万石行列で行進!!

ぜひ姉妹都市金沢で演奏したい…。始まりは、2003年夏にバッファロー市の音楽教諭ラリー・ドゥビル氏より届いた一通のEメールでした。それから2年の歳月を経た2005年、ドゥビル教諭を団長とするハンブルグ高校ジャズバンド団22名の来訪がついに実現しました。ハンブルグ高校は、生徒数約1,200人、ニューヨーク州西部においてレベルの高い音楽教育を誇る公立高校。今回来沢したのは、総勢220名のジャズバンドの中から厳しいオーディションによって選ばれた才能あふれる生徒達です。一行は、第54回金沢百万石まつりのメイン行事・百万石行列(11日)への参加に合わせて、6月8日から13日まで滞在しました。

行列への参加に先立ち、一行は金沢市立湯涌小学校・芝原中学校および金沢市立工業高校を訪問し、日本の学校生活の雰囲気を味わうとともに、お互いの演奏を披露し合い、音楽を通じた交流を楽しみました。

さて、行列当日、一行は特別参加として行列の先陣で出発。激しい雨の降りしきる中でしたが、観客からの声援にも常に笑顔で応え、「ニューヨーク、ニューヨーク」、「ジョイ・トゥ・ザ・ワールド」など我々にもおなじみのナンバーを軽快なリズムで演奏しました。行列の終盤にさ



もうすっかり仲良しです

しかかると、雨脚も弱まり、団員は皆、充実感に満ち溢れた晴れやかな表情でゴールを迎えました。

このほか、兼六園、金沢21世紀美術館の視察、新能鑑賞、着付け体験などを行い、姉妹都市への理解を深めると同時に日本の伝統文化を十分に体験し、貴重な思い出を持ってバッファロー市へ戻りました。

金沢21世紀美術館と アルブライト・ノックス美術館が交流合意

2006年2月7日から10日にかけて、バッファロー市にあるアルブライト・ノックス美術館のルイス・グラチオス館長が金沢市を訪問し、金沢21世紀美術館との交流について同美術館の蓑豊館長らと協議しました。

アルブライト・ノックス美術館は、1905年に設立され、ピカソやゴッホらの近代美術からアメリカの現代アート作品までを中心に所蔵する世界的に有名な現代美術館のひとつです。

美術館同士の交流について協議した両館長は、2007年度以降において、アルブライト・ノックス美術館収蔵品展を金沢21世紀美術館で開催する方向で合意しました。

今後は、学芸員の相互派遣による人的交流をはじめとして、展覧会開催に向けてのますます活発な交流が期待されます。



世界的に有名なアルブライト・ノックス美術館



イルクーツク 〈ロシア連邦〉



中学生親善団の表敬訪問後の記念写真

提携 1967年(昭和42年)
人口 54万人
面積 302km²

バイカル湖(世界遺産)の南にある中部シベリア最大の都市で、イルクーツク州の州都。天然資源が豊かで、機械、木材、食品などの工業が発達しているほか、高級毛皮製品などの伝統産業も盛ん。アンガラ川沿いに広がる市街は、美しく落ち着いた雰囲気から「シベリアのパリ」とも呼ばれる。市内には、イルクーツク大学をはじめとした学術施設、先端技術の研究所や工場などが数多くあるほか、市民の文化・芸術活動も盛ん。

ようこそ！ 中学生親善団の皆さん！！

2005年7月2日から9日まで、ユーリ・コロネフ イルクーツク市議会議員を団長とする中学生親善団20名が金沢を訪れました。一行は、金沢市の中学生と交流するため市内中学校を2校訪問し、小將町中学校ではクラスの中に生徒らと質疑応答などの交流を行いました。続いて訪問した港中学校では、体育館での全体集会において、もちつきや獅子舞などの日本文化の紹介を楽しみました。両校での交流プログラムの後には、親善団の団員からもアコーディオン演奏やエアロビクス演技など多彩なパフォーマンスを披露し、同じ世代の親睦を深めました。また、航空便の運行の都合(土曜日発着)で、金沢到着日に行ったホームステイでは、旅の疲れも残っていたようですが、ホストファミリーの家族の一員として、日本の生活様式を体験し、楽しいひとときを過ごしました。さらに交流会などを通じて多くの人々と触れ合うとともに、市内視察や日本文化体験など行った後、たくさんの思い出を持ってイルクーツク市へ戻りました。

なお、同団とともに監理部門の専門家であるナタリヤ・ストゥーピナ注文課長も来沢し、本市の監理業務を視察するとともに職員との意見交換を行いました。

新体操ウインターフェスタに イルクーツク市新体操団が参加！

2006年2月5日に開催された「新体操ウインターフェスタ in KANAZAWA 2006」に本年も参加するため、2月1日から2月8日の日程で、エレーナ・ヴォイツェホヴィチ イルクーツク市総務委員長を団長とするイルクーツク市新体操選手団一行7名が金沢を訪れました。

同団の新体操選手4名は、金沢市総合体育館での新体操演技会において、中国選手、ブルガリア・ジュニアナ

ショナルチーム及び全日本選手団らとともに素晴らしい演技を披露してくれました。新体操の人気の高さもあって、当日は開場前から多くの方々が訪れていました。演技会が開始されると、観客は目の前で繰り広げられる選手らの繊細かつ華麗な演技、ダイナミックな動きに魅了され、演技終了後も、選手に対する惜しめない拍手が鳴り止みませんでした。

なお、同団は、訪問期間中、同事業の枠組みの中で実施されている「ふれあい交流」を行うため森山町小学校を訪問し児童たちとの交流を深め、さらに市内視察等を行った後、イルクーツク市へ戻りました。

トピックス 「日口沿岸市長会」を金沢市で開催！！

★2005年8月25日から26日まで、金沢市文化ホールにおいて、第20回日口沿岸市長会が開催されました。この会議は、わが国日本海沿岸の19市で組織される日口沿岸市長会とロシア連邦極東およびシベリア地域の18市で組織される日口極東シベリア友好協会の会員市が、都市間交流における友好親善、相互協力について協議するもので、金沢市での開催は1973年に次いで2回目のこととなります。

★今回の会議には、日本側から18市、ロシア側からは、姉妹都市イルクーツク市代表であるシクロバト元市長を含む12市の代表者が参加しました。これまで、両地域の友好の促進、文化・経済関係の強化、市政の諸分野にわたる問題などについて意見交換を行っており、今回は、①「経済・観光分野における協力の促進について」②「自然災害防止と復興における協力について」③「友好・スポーツ・文化・青少年交流のさらなる発展について」の3つの議題に関する討議を行いました。

★本市からは山出市長が、「文化を活かしたまちづくり」をテーマに、本市のまちづくり政策に関する取り組みについて紹介しました。

★この会議の開催に併せ、石川県ロシア協会では、8月25日、金沢市観光会館において『日口青少年芸術交流金沢公演「あるあるロシア探検隊」』を実施しました。



ポルト・アレグレ 〈ブラジル連邦共和国〉



素晴らしい演奏で満員の観客を魅了

提携 1967年(昭和42年)

人口 136万人

面積 470km²

ブラジル南部最大の都市で、リオグランデ・ド・スル州の州都。豊かな農牧地帯とリオデジャネイロに並ぶ良港を持ち、米、ワイン、たばこ、畜産物などの生産のほか、木材、毛織物、金属等の工業も盛ん。四季ははっきりしていて、グワイバル川沿いに広がる市街は、美しいバトス湖や街路樹に彩られる。まちの入口では、この地のシンボルのガウショ(カウボーイ)の像が訪れる人々を出迎えている。

ピアノリサイタル「リストとイタリア」

ポルトアレグレ市出身のピアニスト、アレクサンダー・ドーシン氏によるピアノリサイタル「リストとイタリア」が、2005年5月26日、金沢21世紀美術館シアター21で開催されました。ドーシン氏は、数々の国際コンクールで優秀な成績を取っている著名なピアニストであり、1997年秋にも金沢市・ポルトアレグレ市姉妹都市提携30周年記念コンサートを金沢で行ったことがあります。リサイタル当日は、開場前から列ができるほどの盛況ぶり。満席の会場の中、

ドーシン氏は「ラ・カンパネラ」などを含むリストの名曲計7曲を披露。繊細かつダイナミックな演奏で、訪れた聴衆を魅了しました。鳴り止まぬ拍手の中、アンコールにもリストで応え、余韻の残る中、幕が下ろされました。

また、金沢滞在中には、金沢辰巳丘高校を訪問し、生徒に技術指導を行いました。プロのピアニストからの直接の指導に少々緊張気味の生徒達でしたが、ドーシン氏からの助言に熱心に耳を傾けていました。また、ポルトアレグレでの幼少時代の話や、プロになるまでの苦労話などを、ユーモアを交えて楽しく披露するなど交流を深めました。

Ghent, the Kingdom of Belgium



アントワープ 〈ベルギー王国〉



ヨーロッパで高い評価を得ているアントワープ現代美術館

提携 1971年(昭和46年)

人口 23万人

面積 156km²

フランダース地方の中心都市で、今も中世の面影を色濃く残す芸術・文化のまち。別名「花の都市」とも呼ばれ、花の博覧会「アントワープ・フローラリア」は世界的にも有名。アントワープ港はヨーロッパ屈指の内陸港で、繊維、鉄鉱などの産業が発達した。1816年創立のアントワープ大学やアントワープ美術館のほか、多くの博物館や旧跡があり、中でも、鐘楼やベギン会修道院などは世界遺産に指定されている。

姉妹都市提携35周年を記念して アントワープ現代美術館コレクション展開催が決定!

2005年8月26日から8月28日にかけて、豊田金沢市助役(金沢21世紀美術館館長)がアントワープ市を訪問しました。

姉妹都市提携35周年となる2006年にアントワープ現代美術館(通称:S.M.A.K.)のコレクション展を金沢21世紀美術館で開催するため、コレクションの貸出依頼と、アントワープ市およびアントワープ現代美術館との連携強化について懇談を行い、アントワープ現代美術館のコレクション展を金沢で開催するこ

とに合意しました。

アントワープ現代美術館はヨーロッパの現代アート界で大きな影響力を持つヤン・フート氏が2003年まで館長を務め、ヨーロッパでも有数の現代美術館として評価されるに至っています。

金沢21世紀美術館とアントワープ現代美術館との間では、コレクションの貸し借りだけではなく、学芸員の相互交流など、将来的に向けた交流事業も始まりました。

また、金沢21世紀美術館のコレクションをアントワープ現代美術館で展示する計画も進んでいます。



ナンシー〈フランス共和国〉



世界遺産スタニスラス広場250周年を記念して広場に集まったナンシー市民

提携 1973年(昭和48年)

人口 10万人

面積 15km²

フランス東部の中心都市で、12世紀中頃からロレーヌ公国の都として栄えた。機械、織物、クリスタルガラスなどの産業が発達しており、20世紀初頭の芸術運動アール・ヌーボー発祥の地としても有名。現在は、学生数3万人の学術都市として、また、国際的な演劇祭や、音楽祭、国立バレエ団がある芸術都市として発展している。スタニスラス広場ほかの広場が世界遺産に指定されている。

世界遺産「スタニスラス広場」 創設250周年記念式典に参加！！

2005年5月2日から5月11日にかけて、山出保金沢市長をはじめとする金沢市代表団6名が、スタニスラス広場創設250周年記念式典に招待されたことを受け、ナンシー市ほか、ヨーロッパ数都市を訪問しました。

ナンシー市のスタニスラス広場は、ユネスコの世界遺産に登録されており、2005年に250周年を迎えました。節目の年に、ナンシー市はアスファルト舗装がされ自動車が乗り入っていた広場を、開場当時の姿を再現し、歴史遺産として保存していくために、改めて広場全体の石畳を復元しました。

ナンシー市では、再生がなった広場を大いに祝うため、盛大に創設250周年記念イベントが開催されました。

5月5日にナンシー市に入った金沢市代表団は、同様にナンシー市を訪問した南部康昭金沢市議会議長をはじめとする金沢市議会姉妹都市友好訪問団7名と合流し、午後9時から、スタニスラス広場に約2万人を集めた前夜祭に参加しました。

前夜祭ではスタニスラス広場に面したナンシー市庁舎などをスクリーンとして、時代の流れを表現するメッセージや映像が映し出され、夜空を彩る打ち上げ花火でイベントのフィナーレを迎えると広場は大歓声に包まれました。金沢市代表団も、ナンシー市の姉妹都市として、同様に招待された、ドイツのカールスルーエ市、ポーランドのルブリン市の代表団とともに、光と音の芸術を堪能しました。

翌6日午前、金沢市代表団はナンシー市庁舎で開催された、スタニスラス広場創設250周年記念式典に参加、平林博フランス大使らとともに大きな節目を祝いました。

記念式典に先立ち、山出市長はアンドレ・ロッシノー・ナンシー市長との懇談を行いました。金沢市とナンシー市は繊維や、伝統工芸などを共通の産業をバックグラウンドとして持つことから、互いの長所を生かし、新しいファッション産業を育成するため、連携していくことに同意しま

した。具体的な取り組みとして、2006年中に、ロッシノー・ナンシー市長が地元企業の代表者とともに金沢を訪問し、共同事業の可能性を探ることを約束しました。

なお、一行はファッション産業振興に関するアイデアを得るためにアントワープ市も訪問。世界有数のファッションスクール、アントワープ王立アカデミーとの交流のきっかけを作りました。また、

文化で復興した街として名高いナント市(フランス)を訪問し、廃工場を再生した文化施設の視察や、ナント市長と懇談を行い、帰国しました。



ナンシー市庁舎からスタニスラス広場を見る山出市長とロッシノー市長

交換留学生がそれぞれの街へ！

1973年の姉妹都市提携以来続いている、ナンシー市と金沢市の留学生交換事業。

ナンシー国立美術大学出身のニコラ・メニヤンさんは、16人目のナンシー市からの留学生として、2004年の10月から2005年の7月までの約1年間、金沢美術工芸大学で学びました。

日本独特の空間表現に関心を持っていたメニヤンさんは、美大での勉強を生かし、自ら体感した日本文化をとおして表現活動の幅を広げました。

また、2005年10月からは、金沢市からの留学生、石山雅聖さんがナンシー市に旅立ちました。金沢市から17人目の留学生となる石山さんは金沢美術工芸大学3年生(派遣時)。国立ナンシー美術大学での勉強や、ナンシーでの新しい生活に目を輝かせていました。



金沢市役所に山出市長を訪ねたニコラ・メニヤンさん



蘇州 <中華人民共和國>



蘇州市で開催された「日中韩姉妹都市少年フォーラム」

提携 1981年(昭和56年)

人口 210万人

面積 1650km²

約2500年前、「呉」の国の都として築かれた古都。温和な気候と美しい自然に恵まれ、古くから景勝の地として知られる。美しい庭園と寒山寺などの名所旧跡が数多く、拙政園や留園など9カ所もの庭園が世界遺産に指定されている。食の地としても有名で、「魚と米の里」と呼ばれているが、近年は、シルクなどの特産品のほか、近郊に日本企業を含む多くの外国企業が進出し、めざましい経済発展を遂げている。

金沢のまちづくり・観光施策を世界にアピール！

2005年4月21日から25日まで、「2005年中国蘇州国際観光祭ならびに蘇州市長諮詢会」に、須野原雄金沢市助役を団長とし、古谷利彦金沢市観光協会理事、桶川秀志金沢市観光交流課長ら4名が参加しました。一行は、まず「蘇州市の実情にあったサービス産業をいかに発展させるか」をテーマとした蘇州市長諮詢会に参加。桶川課長が、「文化を活かしたまちづくりと観光」と題するプレゼンテーションを行い、本市のまちづくり・観光施策を紹介し、蘇州市や各国の代表に金沢市をアピールしました。

また、観光祭の関連プログラムに参加し、蘇州市との絆を強化し、各国の観光都市との交流を深めました。

真夏の蘇州市へ金沢市の中学生を派遣！

— 第2回中学生親善団・日中韩姉妹都市フォーラム参加少年代表団 —

2005年7月28日から8月4日まで、2001年度からの青少年定期相互交流の一環として、角健治金沢市環境局長を団長とし、中学生14名を含む19名の第2回中学生親善団と、蘇州市と本市の共通の姉妹都市である韓国・金州市の中学生による英語討論会「日中韩姉妹都市少年フォーラム」に参加する中学生4名を含む6名の少年代表団を、同じ日程で派遣しました。

両団は、30日朝から翌31日の夕刻まで二つに分かれ、中学生親善団団員はホームステイへ、一方日中韩姉妹都市少年フォーラム参加団員は、各市からの中学生とフォーラムの準備をしました。フォーラムは、31日午後、環境問題や学校・家庭生活をテーマに蘇州市図書館で実施されました。中学生親善団員も各ホストファミリーと一緒にフォーラムを聴講しました。フォーラム終了後、フォーラムに参加した中学生、中学生親善団員及びホストファ

ミリーを交えた交流会が開催され、金沢市の中学生は、日本文化の紹介や「金沢百万石音頭」を披露しました。

翌日から両団は再び同一行動し、青少年文化施設「少年宮」や中学校訪問、金沢市の紹介やバスケットや卓球の親善試合等を通じて交流を深めた後、蘇州市郊外や上海市内の見学を行った後、金沢に戻りました。

愛知万博を契機に友好の更なる促進を約束！

2005年8月29日、「愛・地球博」長久手会場中国館で開催された「蘇州ウィーク」開幕記念式典に、須野原雄助役ほか2名が参加しました。式典のため閣立蘇州市長も来日しており、須野原助役は同市長と懇談し、両市の交流の促進を約束しました。また130名以上の式典参加の同市代表団から、県内企業の招聘を受けた前の同市外事弁公室主任・金海龍蘇州市呉中區長を団長とする6名が、9月1日に来庁し山出市長と懇談しました。金区長は、2000年の百万石まつり以来、2回目の金沢訪問でした。

3月に2つの代表団が来沢、図書館交流が実現!!!

2006年3月7日から10日まで、魏之光蘇州市人民代表大会常務委員会副秘書長を団長とする蘇州市友好代表団6名が来沢、3月8日、金沢市立玉川図書館において、疋田同館館長と同団の蘇州図書館の郭腊梅副館長との間で、両市図書館交流の合意書が調印されました。このほか一行は、経済団体や企業訪問、「金沢テクノパーク」を視察しました。

また、同3月28日から31日までは、李存鈞蘇州市老幹部局副局長を団長とする5名の蘇州市代表団が来沢し、友好交流団体への訪問や、本市の農政に関する視察を精力的に行いました。



全州 <大韓民国>



日韓工芸作家展オープニング

提携 2002年(平成14年)
人口 62万人
面積 206km²

「後百濟」の都で、千年余の歴史を持つ古都で全羅北道の道都。国宝の豊南門や韓式家屋の保存地区など歴史遺産を数多く残している。周辺は豊かな穀倉地帯で、韓国の「食と文化の里」として知られ、王朝料理やビビンバップなどの食文化、伝統音楽パンソリに代表される国楽の中心地である。「韓紙」「合竹扇」などの伝統工芸品のほか、国際映画祭・スポーツ大会などを通じ、国際都市としての発展を目指している。

金沢市代表団、全州市を訪問

10月15日から18日まで、山出保市長、南部康昭議長(当時)をはじめとする金沢市代表団11名が全州市を訪問しました。全州市では山出市長が全北大学にて「伝統と創造—まちづくり・文化・産業—」をテーマに講演を行ったほか、金完柱市長をはじめとする全州市民と交流を深めました。10月18日から10月23日まで全州市の全州工芸品展示館にて「第4回金沢市・全州市姉妹交流金沢工芸作家招待展」が開催され、代表団一行は開会式に参加しました。この展示会では金沢市工芸協会役員の陶芸、染色、金工、漆芸などの工芸作品41点が展示されたほか、金沢の華道家2流派4名がこの展示会に参加し、いけ花の展示とデモンストレーションを行いました。会場は終日人の流れが途絶えることのないくらい多くの全州市民が会場に訪れ、大盛況でした。

金沢の伝統文化に韓国人も注目

韓国から金沢の文化行政についての視察が相次ぎました。4月には全州市伝統文化中心城市推進団32名、2月に全州大学教授一行4名が訪問しました。また、全州市からの紹介を受け、11月に韓国政府文化観光部関係者6名、2月に文化観光部が主催する韓国の地方公務員研修一行40名が金沢を訪問しました。訪問者は市職員から伝統的まちなみ保存施策や文化行政一般について説明を受けたほか、金沢21世紀美術館、金沢市民芸術村、卯辰山工芸工房などの文化施設を視察しました。一方、金沢学院大学の大場吉美教授が5月に全州市で開催された「伝統文化学術大会」に全州市からの要請により参加し、金沢の伝統文化政策について発表を行いました。

2005年は日韓友情年

2005年は日韓国交正常化40周年の節目であり、日韓両国政府は「日韓友情年2005」と定め、日韓両国民のさらなる相互理解と友情を深めるため、日韓両国各地で様々のイベントが開催されました。

金沢の観光関係者7名が11月に全州市を訪問し、地元業者との商談会を開催しました。この際、全州市にて観光キャンペーンを開催し、金沢の三味線奏者3名による演奏が花を添えました。また、泉野図書館所蔵の図書1,000冊を全州市の図書館に寄贈しました。

金沢市と全州市とは2002年の姉妹提携締結後、様々な交流が活発に行われ、友情を育んできました。これからも、民間レベルによる幅広い交流が期待されます。

全州市職員、金沢の福祉を学ぶ

全州市で社会福祉の仕事をしている金容求さんが総務省などの支援を受けた自治体職員協力交流事業の協力交流研修員として6月から11月までの約半年間、金沢市福祉健康局にて福祉業務全般について研修を受けました。研修期間中、金沢で生活し、日本の文化や金沢市職員を対象に自発的に韓国語研修の講師を務めるなどし、研修を通じ、金沢市の福祉担当職員との交流を深めました。



花束を受け取る全州市職員 金容求さん(左)

国際交流員の1年

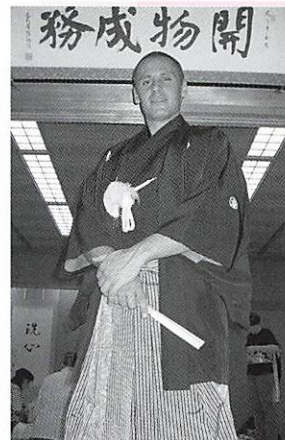
クラウディオ・ヴァスコンセロス (ブラジル)

来日前、先生の経験があったにもかかわらず、国際交流員として駆け出しのころ、日本語で講座を担当したときのあの気持ちはとても忘れられないです。そのとき心臓をドキドキさせながら自分の出番を待っていましたが、3年間国際交流員を経た現在でも、その講座直前の緊張感や不安は変わっていないと思います。

金沢市役所や金沢国際交流財団の皆さんと共に職場の日常や四季の訪れを楽しんだり、数々の講座やイベントの企画と実施に関わったり、外国人相談窓口で通訳や翻訳などをしたり、日々とても貴重な経験をえました。日本語はもちろんのことですが、ルーズなブラジル人とは大違いで、日本人の世界的に有名な真面目で細かい働きぶりから学び、効率よく時間を使い、協力のできる人間になったと思います。

これから金沢で得た家族を大事にしなが、どんどん日本や日本語についての知識を増やし、二国間の友好関係および未来志向の協力関係を高めるために貢献し、帰国後、金沢で覚えた素晴らしい心得を他のブラジル人にも伝えたいと思います。

まだ去ってもいないのに、今でも金沢で体験したことや目撃したいろいろなエピソードの思い出を懐かしんでいます。金沢城の桜、内灘の海水浴場、中央公園の紅葉、兼六園の冬景色…ええ、確かに私の人生の中でとてもステキで充実した時期だったと思います。こんな最高のプレゼントを下さいます本当にありがとうございます。Muito obrigado e tchau, Kanazawa!



張 永允 (大韓民国)

안녕하세요!

韓国からきた国際交流員張永允です。

金沢にきたのが昨日のようですが、もう3年経って帰国を控えています。初めて金沢に着いた日、桜がとてもきれいだったことを鮮明に覚えています。雨と雪が多い金沢の天気には驚きましたが、韓国は町の中に雪が積もるほど降ることが少ないので、楽しい経験でした。

金沢にきてから韓国を紹介したり、韓国との交流の仕事をしてきました。特に去年は日韓友情の年であって、その記念事業として「能」の韓国公演を手伝ったことが記憶に残っています。日本の伝統芸能についてあまり触れたことがなかったので、いい勉強にもなり楽しく仕事ことができました。韓国公演には小学生の子どもたちも一緒にいたので、さらに楽しかったです。

金沢で過ごした3年間は忘れられない思い出です。古い町並みが残っている路地を歩いたり自転車で走るのが好きだったので、韓国へ帰ってから懐かしく思うことでしょう。これからも金沢との縁を大切にしていきたいです。

カムサハムニダ

ミーケ・パウエルズ (ベルギー)



楽しんでいると時間があっという間に過ぎるものだとされますね。私もそう思います。私にとってとても楽しい一年間がまた終わりました。国際交流員の仕事は本当にいいなと思います。なぜかという、仕事として色々な経験ができるし、世界のあらゆるところから来る人と会えるからです。もちろん、やったことを全部書くことは出来ませんから、一番記憶に残っていることについてちょっと書きたいと思います。

一番記憶に残っている出来事は去年5月のベルギー・フランスへの出張です。その時に、山出市長や金沢美大の先生などと一緒に通訳のためにベルギーとフランスに行きました。このように大きい出張は私にとって初めてでしたので、不安なこともありましたが、結局とてもうまく行ったと思います。アントワープ、ナンシー、パリ、ナントを訪問して、色々な面白い人々と出会いました。この出張に参加できて、本当に感謝しています。もしこの出張のおかげで、金沢市とベルギーやフランスの都市との関係がより強くて良いものになれば、とても嬉しいです。その出張が終わってから、私は4週間ベルギーに帰りました。一年ぶりの帰国はもちろん楽しかったですね。

去年のもう一つのハイライトは、去年の8月にやった仕事です。その時に2日間初めてテレビのリポーターになりました！金沢ケーブルテレビの番組のためにリポーターとして色々な人にインタビューしました。かなり緊張して、言葉を覚えるのもちょっと大変でしたが、すごく楽しかったです。このような仕事は普通あまりできないと思いますが、国際交流員の仕事はバリエーションが本当に多いですから、2日間リポーターになることができました。とてもいい経験でした。

11月にも、一生忘れない仕事をしました。金沢で金沢コミュニティ映画祭があって、私は初めてお客さんのアテンドをしました。お客さんはアピチャポンさんというタイから来た監督でした。「アピチャポン」という名前は「いい息子」の意味だそうで、私はその名前がとても好きできれいだと思います。アピチャポンさんと一緒に過ごした時間は4日間しかなかったですが、本当に友達になったと感じています。

日本にいた間に、できるだけ日本語を勉強したほうがいいですから、日本語講座、言語・教育コースも受講しました。9月から6ヶ月間毎月宿題をこなして、最後に2月に研修に行きました。宿題は時々大変でしたが、半年頑張ってきて、今そのコースがうまく修了できて、やはりちょっと嬉しいです。久しぶりにまた学生になったのは懐かしかったですね。

2005年の終わりにはもう一度ベルギーに帰りました。どんなに日本が好きであっても、クリスマスとお正月は自分の国で家族と一緒に過ごせると、楽しいですよ。そして、日本に戻ってきたら、また元気いっぱい仕事ができますね。

去年はとても楽しくて、本当にあっという間に終わりました。いい思い出がいっぱいありますので、金沢で過ごした2005年を決して忘れられません。今年、2006年は犬の年です。私は犬が大好きですから、今年もいい年になりますように。



ケイティ・ラブグローブ (アメリカ)

ハロー・アゲイン！（再び、こんにちは。）

金沢市に採用されてから、もう1年半が経ちました。とても早く経ってしまっていると感じます。この1年間には、仕事で色々な翻訳や通訳やイベントができて、たくさんの人に出会えて、金沢に勤めることになってとても良かったと思います。

アメリカに勤めていると自分で判断しなければならない場合が多く、日本で供覧や伺い組織を最初体験した時、驚きました。一般的にいうと、アメリカの会社は競争的で、情報は他の人にあんまり教えてくれません。アメリカは積極的に自分自身から情報を探さなければならない社会なので、もし知らない情報が流出したら、個人の責任になります。しかし、日本の場合は、職場で情報が分からなかったら、供覧や伺いをちゃんと回さなかったせいになる場合もあります。

更に、国際交流員として勤めている機会を通して、日本人のスタッフとのチームワークができただけでなく、金沢市役所に勤めている各国の国際交流員とのチームワークの体験もできて、とても有意義な勉強になりました。金沢にいる時間はだんだん短くなっていきますが、これからも頑張っていきたいと思っています。

よろしくお願ひします。



第32号(2005年度) 2006年3月 発行
金沢市姉妹都市交流委員会
事務局：金沢市都市政策局文化スポーツ部国際文化課
TEL 076-220-2075 FAX 076-220-2069
E-mail : bunshin@city.kanazawa.ishikawa.jp